



**日本一低い  
天保山**

港区の端っ  
こ、築港にあ  
る天保山は標  
高四・五三m

周りはご存知のように公園です。一年の中で一番長い、猛暑の時期のデモ―七月非核平和行進の終点です。最近では米艦や自衛艦の大阪港入港を直前にしか知ることができず、抗議集会とデモも無くなっ  
てしまいました。かつては、ここをよく使いました。

した「彰往察来」の碑もここにあります。江戸時代には四倍以上、約二〇メートルの高さで山頂から淡路島や四国も見えたそうです。前回は紹介しましたが淀川の治水のために人工的につくられたのが安治川。その後も上流から相変わらず土砂が運ばれ川底に積り、川が溢れて水害がよく起こりました。そこで一八三一年(天保二年)から二年かけて大がかりな川ざらえが行われました。大きな船を大阪に運びやすくすることも目的。川底を浚えた土砂を河口に積み上げて出来たのが「天保山」でした。過酷

な重労働には幕府に命じられて多くの人々が動員されました。山には松や桜が植えられ茶屋が並び、花見や雪見、舟遊びなどで賑わい、「浪花の newName」となったそうです。「天下の台所」大阪をめざす船と、大阪から出発する船、多くの船が天保山沖を行き交い、船からの目印となったので「目印山」とも呼ばれました。

**大阪港と戦争**

江戸時代の終わり、天保山沖にロシアの軍艦がやってきたのを契機に、一八六四年天保山を削って砲台が置かれました。その後も地盤沈下等でドンドン低くなり今の高さになったようです。今も江戸時代と同じくお花見時にはにぎわう天保山ですが、アジア太平洋全域への日本の侵略戦争では、大阪港から沢山の軍隊や軍需物資が戦場へ送りだされ、この辺一帯が兵站基地となりました。その為、戦争末期の米軍による大阪大空襲では全市が焦土と化しましたが、港区は真っ先に爆撃的となりました。

基地・軍隊は住民を守りません。住民は標的にされるだけです。「平和貿易港を守れ」「大阪港の軍港化阻止」はその教訓から生まれたスローガンです。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！